

乙巳の変
ゆかりの
明日香・
桜井を歩く



「乙巳の変ゆかりの明日香・桜井を歩く」

2023年1月14日発行

監修：千田稔 イラスト：村井英晃 デザイン：川上伊都子 編集：千脇孝裕（旅行読売出版社）

編集協力：桜井市 明日香村 談山伝統文化観光協会 飛鳥観光協会 談山神社

発行：奈良テレビ放送株式会社

※無断複製・無断転載を禁じます

「乙巳の変」とは

西暦645年6月12日、
飛鳥で歴史的な大事件が起きました。
中大兄皇子と中臣鎌足が
蘇我入鹿をたおした「乙巳の変」です。
7世紀のなかば、蘇我入鹿の権力は、
天皇をもしのぐほどでした。
皇極天皇の皇子・中大兄皇子は
この状況をあらため、
天皇中心の国づくりをめざしました。
この冊子は「大化の改新」のきっかけとなった
「乙巳の変」のゆかりの地を紹介するものです。
奈良県明日香村と桜井市に残る歴史の舞台で、
約1400年前の風景を
想像してみてくださいいかがでしょうか。

案内人



物知史麻呂(モノシリノフミマロ)
時空を旅して飛鳥時代からやってきた
「乙巳の変」事情通のフミマロさん。
特技は蹴鞠(けまり)。サッカー少年
のツバサくん思わず親近感がわき、
いっしょにゆかりの地を巡ることに。



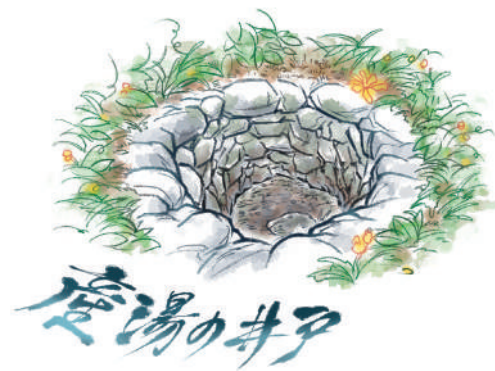
飛鳥ツバサくん
歴史大好き&サッカー大好きな
少年。「乙巳の変」について学んで
いる最中、飛鳥時代からやってきた
フミマロさんと出会い、当時の事
を教えてもらうことに。





ほんとだ、井戸があるよ。

生まれたばかりの鎌足はどんな赤ちゃんだったのかな。将来成し遂げる大事件や、これから歩む自分の人生なんて知るよしもなく、この地で「オギャー」と産声を上げたんだね。



中臣鎌足は西暦614年、大和国高市郡の生まれといわれています。誕生地とされている場所は明日香村小原で、大原神社には「大織冠誕生之旧跡」という石碑があります。

藤原氏のはじまりの地 藤原鎌足公誕生地

「大織冠」とは鎌足が死ぬ前、天智天皇（中大兄皇子）が「藤原」の姓とともにさずけた大臣の位じゃ。「大織冠」をさずけられたのは中臣鎌足だけ。大原神社の奥には「藤原鎌足産湯の井戸」もあるぞ。



日本最初の仏教寺院

あすかで

飛鳥寺

西暦588年に蘇我馬子が平和な国への願いを込めて、596年の推古天皇の時代に完成した日本最初の本格的仏教寺院です。最初は塔を中心に外側に回廊がある大きな寺院でした。西側には中大兄皇子と中臣鎌足が出会った蹴鞠会が行なわれた「槻木広場」があったと考えられています。



日本で最初のお寺で、本尊の飛鳥大仏は日本でいちばん古い大仏なんだよね。皇子と鎌足が会い、蘇我蝦夷・入鹿親子の大きな屋敷があった甘樫丘も見える場所。うーん、なかなかの歴史的な重要スポットだぞ。なんだか蹴鞠ってサッカーと似ているね。



飛鳥寺の西側にあった「槻木広場」は人々が集まる場所で、遠くから飛鳥に来た人々をもてなす施設もあったんじゃない。中大兄皇子に近づこうとしていた鎌足は、蹴鞠で皇子がとばしたくつをひろい、これがきっかけでふたりは仲を深めていくんじゃない。





蘇我一族の屋敷跡

甘檉丘

標高148メートルの展望広場からは、明日香村はもちろん、大和三山や飛鳥宮跡、藤原宮跡など、大和国原の風景が見えます。蘇我蝦夷・入鹿親子が大邸宅を構えていたといわれています。



なるほど。その屋敷からは天皇の宮も見下ろすことができ、蘇我氏の権力の大きさをみせつける場所だったわけだね。いまでは歴史の名所を見渡せる丘。飛鳥時代を学ぶのにいちばんいい場所だね。見晴らしがよくて気持ちいいー。



甘檉丘にあった蘇我蝦夷の屋敷を「上宮門」、入鹿の家を「谷の宮門」と呼んだんじゃ。まわりを柵で囲い、なかには武器庫を設けて、まるで要塞のような屋敷だったそうじゃ。蘇我氏親子の権力がいかに大きかったか、わかるじゃろ。





入鹿暗殺の密談の場所 談山神社・多武峰

藤原鎌足を祀る神社。藤の花が満開のころ、中大兄皇子と鎌足が裏山で入鹿暗殺についての相談をしたといわれ、「大化の改新談合の地」の伝承があります。皇子と鎌足が出会った蹴鞠会にちなんで、毎年4月29日と11月3日に「けまり祭」が行われます。



十三重塔が、とても存在感があるね。
鎌足の長男の定慧和尚が遣唐使として帰国後に、講堂といっしょに建てたんだね。
最初は妙楽寺というお寺だったと聞いてびっくり。

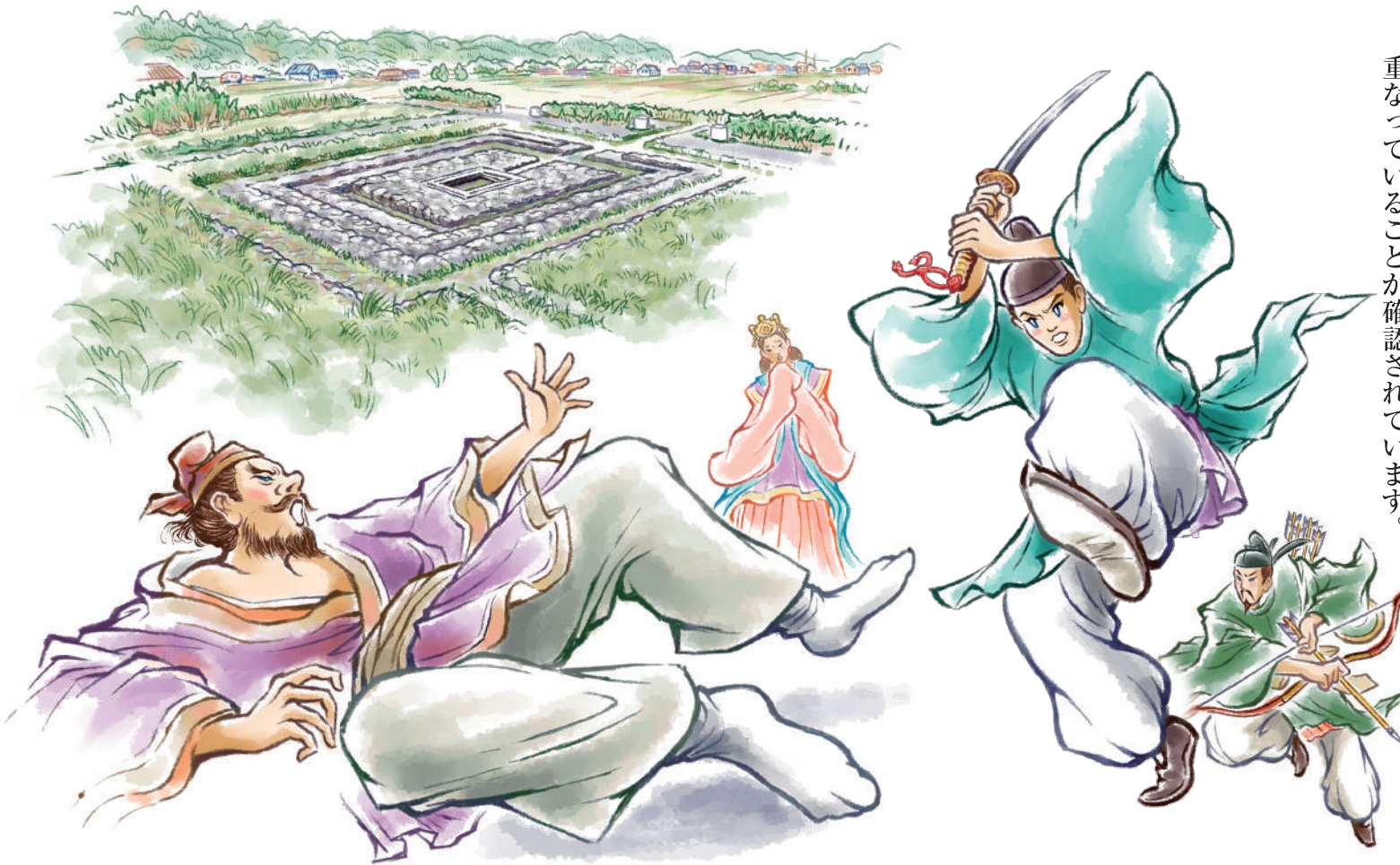


談山神社がある山「多武峰」のふもとあたりを本拠地としていたのが鎌足の中臣一族で、天皇家の神を祭ることを仕事にしていたんじゃ。談山神社本殿の「藤原鎌足公御神像」は、神社の神職のなかでもたっぴひとりで、宮司だけしか見ることができない、神聖な像なんじゃ。

蘇我入鹿最期の場所

飛鳥宮跡(伝飛鳥板蓋宮跡)

なかのおおえのおうじ なかとみのかまたり
中大兄皇子と中臣鎌足らによる入鹿暗殺の舞台といわれています。
ほつたてばしら おおいしじ
掘立柱や石敷き、大井戸跡などが発掘調査で見え、
うえ あすかきよみはらのみや のちのあすかおかもとのみや
上が飛鳥浄御原宮と後飛鳥岡本宮、真ん中は飛鳥板蓋宮、
した あすかおかもとのみや
下が飛鳥岡本宮の跡と、3つの時期の宮殿跡が
かさ 重なっていることが確認されています。



わー、ここがまさにあの「乙巳の変」のハイライト。歴史的な大事件の現場跡かー。切られた入鹿の首は、ここから600メートルもはなれている飛鳥寺の西側「蘇我入鹿首塚」まで飛んで行ったと言われているね。次の日には父・蝦夷もみずから命を絶ち、権力の絶頂にあった蘇我氏一族が、たった2日間で滅びてしまったんだね。



せいれき こうくりく くだら しらぎ ししや てんのう
西暦645年6月12日、ここで高句麗・百濟・新羅の使者が天皇に貢物を捧げる儀式があった。俳優の滑稽なしぐさにつられ、剣を手渡した入鹿。儀式がはじまり、皇子が柱のかげから飛び出し、入鹿に斬りつけた。「私に何の罪があるのでしょうか」とうめく入鹿。刺客2人がさらに斬りつけ、入鹿は息絶えたんじゃ。





「乙巳の変」ゆかりの地リスト

- 藤原鎌足公誕生地（大原神社）**
 奈良県高市郡明日香村大字小原 134
 ☎ 0744-54-3240（明日香観光協会）
 交通：近鉄橿原神宮前駅から
 明日香周遊バス「飛鳥大仏前」下車徒歩 5 分
- 飛鳥寺**
 奈良県高市郡明日香村飛鳥 682
 ☎ 0744-54-2126
 時間：9時～17時30分（10月～3月は～17時）
 交通：近鉄橿原神宮前駅から
 明日香周遊バス「飛鳥大仏前」下車
- 甘檜丘**
 奈良県高市郡明日香村大字豊浦
 ☎ 0744-54-2441（飛鳥管理センター）
 交通：近鉄橿原神宮前駅から
 奈良交通バス「甘檜丘」下車徒歩10分
- 談山神社・多武峰**
 奈良県桜井市多武峰319
 時間：8時30分～16時30分
 ☎ 0744-49-0001
 交通：JR・近鉄桜井駅から
 桜井市コミュニティバス
 「談山神社」下車徒歩5分
- 飛鳥宮跡（伝 飛鳥板蓋宮跡）**
 奈良県高市郡明日香村岡
 ☎ 0744-54-3240（明日香観光協会）
 交通：近鉄橿原神宮前駅または飛鳥駅から
 明日香周遊バス「岡天理教前」下車徒歩5分

あとがき

西暦645年に起きた「乙巳の変」は、
 これまで「大化の改新」として
 知られてきました。
 中大兄皇子と中臣鎌足は、
 その後の政治の主役となったため、
 蘇我氏一族は悪者のイメージで
 語られるようになりました。
 一方で、蘇我氏は仏教を取り入れ、
 飛鳥文化の成立に力を
 尽くしたことを忘れてはなりません。
 この冊子を持って
 「乙巳の変」ゆかりの地を訪ねることで、
 明日香・桜井の歴史への理解が
 深まることを願います。

